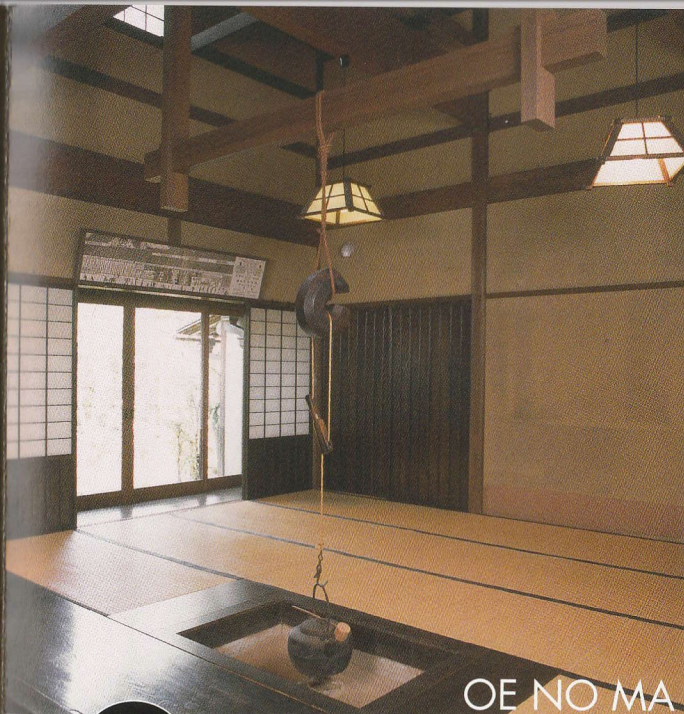


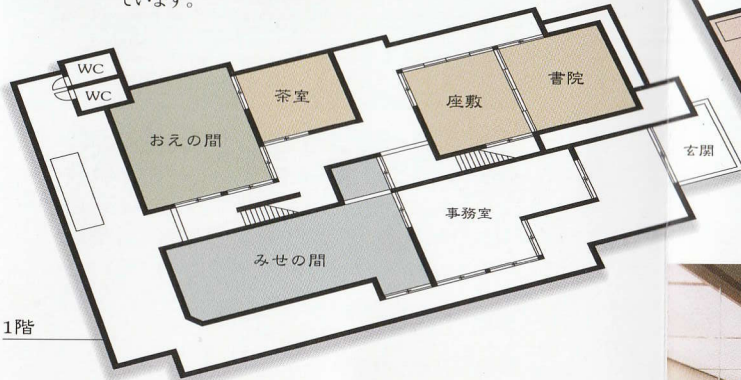
金沢の町民文化が今に生きる...



OE NO MA

おえの間
和室15帖

土間から一段上がった部屋「御上」がなまって「おえの間」になったもので、囲炉裏があり、天井に太い梁(はり)があり、くみ天井となり、吹き抜け空間が大きく広がり、天窓が設けられています。



1階



MISE NO MA

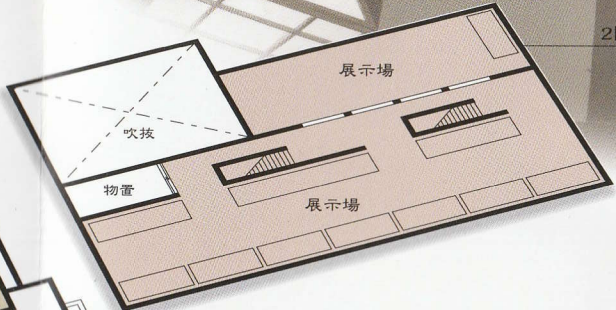
みせの間
和室16.5帖

藩政時代の面影を残す中屋薬舗の「みせの間」を復元したもので、玄関には、くぐり戸のついた大戸(おおど)が入り、柱間の開放できる藪(しとみ)もあります。昔ながらの店先には火鉢や煙草盆、店の中央には「けっかい」と称する間仕切り、中央奥には、薬筆筒、諸道具などがあります。「官許」の円形の大きな看板は屋根の上にかかっけられていたものです。



【茶室】

茶室は茶事を行うための部屋で、4畳半を基本とし、真ん中に炉が切れ、床の間・水屋を備えている。金沢の町屋のなかでも特に格式の高い商家では、家の中に茶室を設けていた。当時、中屋を始め薬種老舗の主人たちは、例外なく風雅を重んじ、茶道・華道・香道をよくし、俳諧謡曲をたしなみ、あるものは書道を極めるなど加賀藩文化に精通していた。俳聖芭蕉が、「奥の細道」の道中、金沢に立ち寄った際に、薬舗「宮竹屋」に滞在したこともある。



2階

展示場
板の間50帖
和室12帖2間

2階の展示場には、金沢の老舗60店が加入する金澤老舗百年會の協力で、各老舗に伝わる生活諸道具をならべる「金沢老舗百年展」の展示があります。



【婚礼模様】

花嫁のれん、結納の水引など金沢の「婚礼模様」の数々や工芸菓子を展示しています。



EXHIBITION ROOM